

JA ひとあひ食材  
おすすめ  
レシピ

豚肉のねぎ塩炒め

11月にお届けする材料を使用したレシピです



材料

- ・麓山高原豚ローススライス 150g
- ・片栗粉……………大さじ1
- ・ごま油……………大さじ1
- ・長ねぎ……………1本
- ・にんにく……………10g
- ・塩、こしょう……………各少々
- ・塩……………小さじ1/4
- ・A 鶏ガラスープの素……………小さじ1/2
- ・酒……………大さじ2

作り方

- ①豚肉は食べやすい大きさに切り、塩、こしょうを振り、片栗粉を塗す。
- ②長ねぎは1cm幅の斜め切り、にんにくはみじん切りにする。
- ③フライパンにごま油を入れて熱し、①を中火で3～4分炒める。
- ④豚肉の色が変わったら、②を入れて中火で1～2分炒め、Aを加えてさっと炒め合わせる。

●材料は1人分が基準になっております。  
●盛付例はイメージです。  
※材料の野菜がない場合は家庭にある好きな野菜をお使い下さい。

東北地方の長期予報

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

東北日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。東北太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率50%です。

<気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

10月26日～11月25日	【気温】東北地方	20	30	50
【降水量】東北日本海側	40	30	30	
【降水量】東北太平洋側	30	40	30	
【日照時間】東北日本海側	30	30	40	
【日照時間】東北太平洋側	30	40	30	

<気温経過の各階級の確率(%)>

10月26日～11月1日	10	10	80
11月2日～11月8日	20	30	50
11月9日～11月22日	30	40	30

凡例： 低い(少ない) 平年並 高い(多い)  
(仙台管区气象台 発表)

編集後記

このたびの台風や大雨により被害を受けられた皆様には心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。  
台風19号では、郡山総合施設が浸水被害により、一部の商品がお届け出来ない状況が続いております。ご迷惑をお掛けし申し訳ございません。  
現在、事務所の片付け、仮事務所の整備等を行い、一日も早い復旧に向け総力をあげて取り組んでおります。  
県本部としてもJA・組合員の皆様に対する支援を実施していきます。

今月の主な行事予定

11月14～15日	営農企画部	TACパワーアップ大会
11月15日	管理部	令和元年度福島県下農業委員会大会
11月23日	畜産部	第52回JAグループ福島肉牛枝肉共励会(郡山会場)



ラジオ福島 「農家の皆さんへ」

午前5時15分～25分  
放・送・予・定

11月5日	生産資材部	営農相談室
11月11日	米穀部	福島県産米の輸出への取組みについて(仮)
11月12日	営農企画部	営農相談室
11月18日	畜産部	肉豚の販売情勢について
11月25日	園芸部	輸出事業について

米穀部

「ふくしまの米 福のメシ」  
キャンペーン開催

福島県内の飲食店における福島県産米使用量のシェア向上を目的として、「ふくしまの米 福のメシ」キャンペーンを開催します。  
福島県内初の「食べログ」とのタイアップ企画となります。

- ◆期 間：10月4日(金)～12月31日(火)
- ◆内 容：50円引きクーポン掲載
- ◆参加店舗：県内100店舗以上
- ◆店舗紹介：期間中の毎週土曜日20：54～福島テレビにて放映
- ◆キャンペーンサイト：「福のメシ」で検索！

URL: <https://tabelog.com/teup/main/ja/te/>



今月の営農情報

生産資材部

稲わらの有効利用で地力維持  
「ワラ分解キング」のご紹介

地方は異常気象への耐応力や収量・食味、さらには放射性物質の吸収に影響するといわれています。地方の低下を抑制するためにも稲わらは持ち出さず水田に戻して有効に活用しましょう。

①ワラ分解キングの特徴

- ①2種類の微生物の働きで稲わらを効率的に分解します。
- ②稲わら分解の促進によって、ガス湧きの発生についても抑制できます。
- ③1,2の相乗効果により、収量の増加に貢献します。
- ④顆粒状ですので、機械散布にも対応しています。

②ワラ分解キングの使い方

10aあたり10kgを全面全層にて施用してください。微生物資材ですので、次の点に注意して施用して下さい。

- ①稲わらに直接ふりかけるように施用する。
- ワラ分解キングの微生物が稲わらに速やかに取りつき、分解を開始します。降雨後など、稲わらが湿った状態であればより効果的です。



- ・稲わらには60kg/10aのけい酸が含まれていますので、けい酸の還元を行い、不足分はケイカルなどのけい酸質肥料で補うと、より効果的です。
- ・稲わら分解のほかにも、植物残さ・残根の分解にもご使用できます。
- ・秋施用が基本ですが、春施用の場合も代かき45日前までにすき込んでください。

②施用後は速やかに土壌にすき込む  
微生物は生き物です。日光に長時間当たると、紫外線により分解菌が減ってしまいます。  
すき込みの耕深は作業効率と酸素の供給を考慮して、5～10cmとしてください。